

令和3年度

# 愛媛県立医療技術大学大学院

保健医療学研究科（修士課程）

看護学専攻

医療技術科学専攻

## 第二次学生募集要項



# 愛媛県立医療技術大学

Ehime Prefectural University of Health Sciences

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況を踏まえ、実施等が変更となる場合があります。  
変更する場合は、愛媛県立医療技術大学ホームページ (<https://www.epu.ac.jp/>) にてお知らせしますので、出願前に必ずご確認ください。

## ○ 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

本学大学院の設置理念や教育目的に賛同し、修士課程での学習を通してさらに高度な知識・技術を身につけ、地域の保健医療福祉分野において活躍できる人材を受け入れます。

受入れに当たっては、入学志願者の能力、意欲及び適性等を多面的に判定し、公正かつ妥当な方法で選抜試験を実施します。

求める学生像は以下のとおりです。

- 保健医療福祉分野の管理者・教育者として貢献する意欲のある人
- 保健医療福祉分野の基礎知識を基盤として、柔軟な発想ができる人
- 保健医療福祉分野の課題を探究するための論理的な思考力を備えた人

研究科共通項目に加えて、各専攻は以下のような人を求めます。

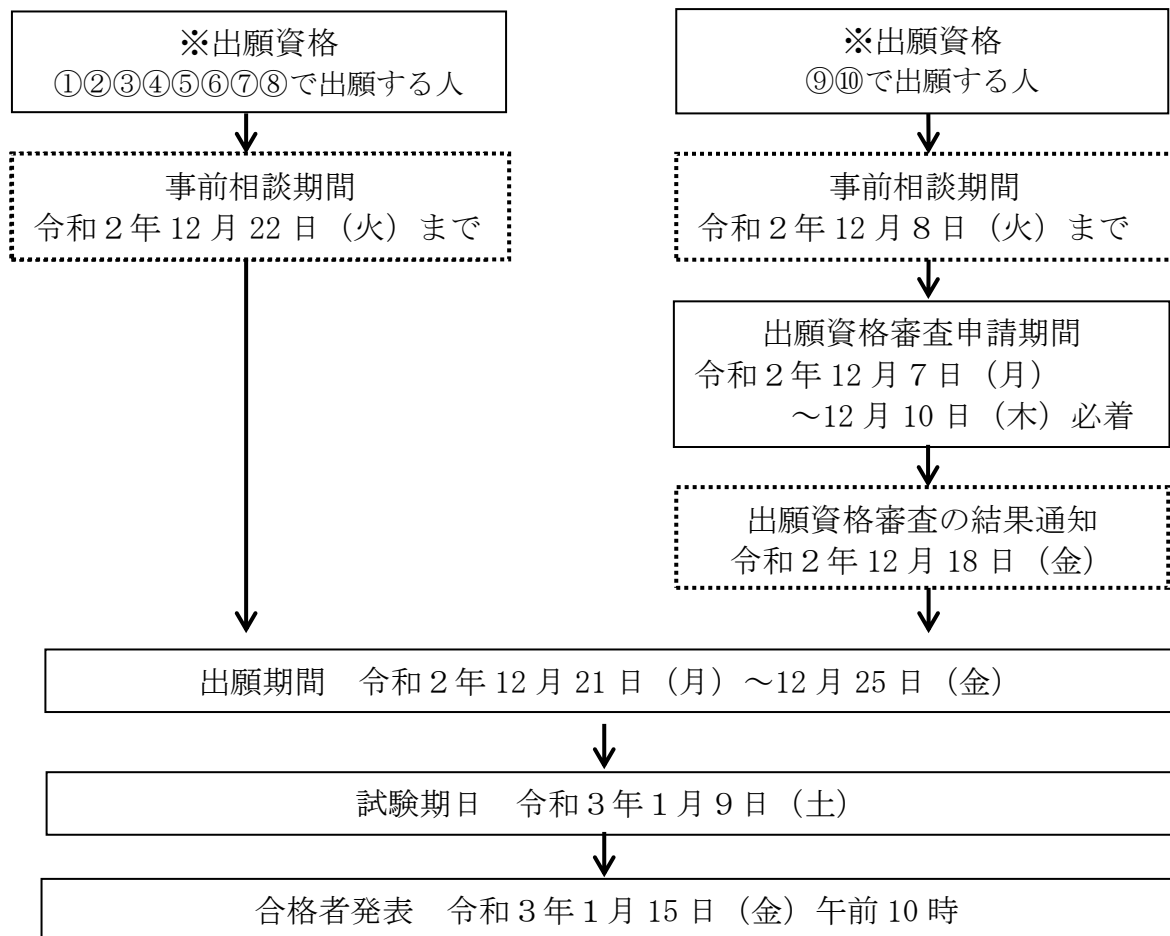
### <看護学専攻>

- 看護実践上の課題解決に向けて自ら探究する意志のある人
- 専門分野における実践能力のさらなる深化を目指している人

### <医療技術科学専攻>

- 臨床検査を主とする医療技術科学分野の研究基礎能力の獲得を志す人
- 臨床検査分野の高度な専門知識と技術の修得を目指している人

## ○ 入学試験実施日程



※出願資格は、P 1 3 出願資格（1）一般入試の①から⑩を参照

# 目 次

## I 学生募集要項

1	募集人員	1
2	入試区分	1
3	出願資格	1
4	選抜方法	2
5	出願資格審査	2
6	事前相談	4
7	出願手続	5
8	合格発表	7
9	試験結果の開示について	7
10	入学手続	8
11	大学院設置基準第 14 条に定める教育方法の特例の実施について	8
12	長期履修学生制度について	8

## II その他

1	初年度納付金	9
2	入学料及び授業料等の減免制度	9
3	奨学金制度	10
4	修了時に取得できる学位	10
5	個人情報の保護	10
6	ホームページ	10

## III 案内図（試験会場・合格発表場所・入学手続場所）

	試験会場・合格発表場所・入学手続場所略図	11
--	----------------------	----

## IV 2021 年度入学生適用カリキュラム

1	教育課程の概要	12
2	授業科目の概要	13

# I 学生募集要項

## 1 募集人員

研究科名	専攻名	募集人員
保健医療学研究科	看護学専攻	1名
	医療技術科学専攻	2名

## 2 入試区分

各分野において、「一般入試」及び「社会人特別選抜」を行います。出願できるのは、いずれか一つです。出願後の入試区分変更はできません。

## 3 出願資格

### (1) 一般入試

次の①から⑩のいずれかに該当する者（令和3年3月31日までに該当する見込みである者を含む。）で、看護学専攻は、看護師、保健師又は助産師の免許を有する者（看護師、保健師又は助産師国家試験受験資格者及び令和3年2月受験資格取得見込み者を含む。）

医療技術科学専攻は、臨床検査技師の免許を有する者（臨床検査技師国家試験受験資格者及び令和3年2月受験資格取得見込み者を含む。）

- ① 学校教育法（昭和22年法律第26号）第83条に規定する大学を卒業した者又は令和3年3月までに卒業見込みの者
- ② 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者又は令和3年3月までに授与される見込みの者
- ③ 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者又は令和3年3月までに修了見込みの者
- ④ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者又は令和3年3月までに修了見込みの者
- ⑤ 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者又は令和3年3月までに修了見込みの者
- ⑥ 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって⑤の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者
- ⑦ 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が定める日以後に修了した者又は令和3年3月までに修了見込みの者
- ⑧ 文部科学大臣の指定した者
- ⑨ 学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって、本学大学院において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者
- ⑩ 本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、令和3年4月1日までに22歳に達する者

※ 出願資格⑨または⑩により出願を希望する者（社会人特別選抜含む）は、個別の出願資格審査が必要です。

### (2) 社会人特別選抜

次の①及び②のいずれにも該当する者とする。

- ① 上記（1）一般入試の出願資格の条件を満たす者
- ② 看護師、保健師、助産師又は臨床検査技師の資格で、通算3年以上（令和3年4月1日現在）の実務経験を有する者

## 4 選抜方法

入学者の選抜は、本学が実施する専門科目、英語、小論文及び面接（社会人特別選抜の場合は、英語、小論文及び面接）の得点結果を総合して行います。

### (1) 試験期日

試験期日	一般入試		社会人特別選抜	
	区 分	時間	区 分	時間
令和3年1月9日（土）	英 語	9：30～10：30	英 語	9：30～10：30
	小論文	11：00～12：00	小論文	11：00～12：00
	専門科目	13：00～14：00	面 接	13：00～18：00
	面 接	15：00～18：00		

※専門科目の出題領域は、看護学専攻は看護学領域、医療技術科学専攻は臨床検査学領域になります。  
※英語の試験では、英和辞典1冊の持込を認めます。（電子辞書は不可）

### (2) 個別学力検査等の配点

入試区分	専門科目	英 語	小論文	面 接	合 計
一般入試	100	100	100	100	400
社会人特別選抜		50	150	200	400

### (3) 試験会場

愛媛県立医療技術大学  
愛媛県伊予郡砥部町高尾田543番地

### (4) 受験上の注意事項

- ① 試験会場へは、午前8時30分から入れます。受験者は午前9時10分までに指定された試験室に入室してください。
- ② 受験者本人以外は、試験室に入室できません。
- ③ 試験開始後、30分以内の試験室入室に限り受験を認めますが、試験時間の延長は認めません。
- ④ 「専門科目」（社会人特別選抜は除く）、「英語」、「小論文」及び「面接」のいずれか一つでも受験しない者は、入学者選抜の対象から除きます。
- ⑤ 当日は、「本学受験票」を必ず持参してください。また、試験会場の建物に入るときは、受験票を提示できるように、あらかじめ準備してください。
- ⑥ 試験時間中に使用を許可する物は、「HBの黒鉛筆（シャープペンシル可）」、「消しゴム」、「鉛筆削り」、「時計（計時機能のみのもの）」及び「英和辞典1冊（電子辞書は不可）」に限ります。
- ⑦ 試験時間内における受験者間の物品の貸借は一切認めません。
- ⑧ 当日、本学受験票を忘れた者は、監督員の指示に従い、仮受験票の交付を受けてください。また、受験票は入学手続の際に必要となりますので、試験後も大切に保管してください。
- ⑨ 昼食は、各自で準備してください。
- ⑩ 携帯電話等は、アラームを解除してから電源を切ってカバン等に入れて、身に付けしないでください。
- ⑪ 試験会場では、監督員等の指示に従ってください。
- ⑫ 試験会場及びその周辺で合格電報等の受付を行う者がいても、愛媛県立医療技術大学とは一切関係なく、トラブル等が生じて責任を負えません。
- ⑬ 試験日前日に本学を下見することはできますが、建物内への立入りは認めません。
- ⑭ 受験者の宿泊の斡旋は行いません。

## 5 出願資格審査

### (1) 出願資格審査対象者

P1 3 出願資格 (1) 一般入試の⑨または⑩で出願を希望する者（社会人特別選抜含む）

- (2) 出願資格審査申請書提出期間  
令和2年12月7日(月)～12月10日(木) 必着

- (3) 出願資格審査申請書提出方法  
出願に要する書類等を一括して、所定の出願用封筒に入れて、持参又は郵送してください。

持参の場合	受付時間は、午前8時30分から午後5時15分までとします。
郵送の場合	書留速達郵便とし、12月10日(木) <b>必着</b> とします。 ※期間内必着ですので、郵送に必要な日数を十分考慮してください。

- (4) 出願資格審査申請書提出先  
〒791-2101 愛媛県伊予郡砥部町高尾田 543 番地  
愛媛県立医療技術大学 教務学生グループ  
TEL 089-958-2111 (内線 108)

- (5) 出願資格審査申請書類

書 類		作 成 方 法
G票	出願資格審査申請書	本学大学院所定の様式を使用し、必要事項を記入のうえ提出してください。※事前相談欄には、事前相談に対応した教員から署名を受けてください。
D票	志望理由書	本学大学院所定の様式を使用し、必要事項を記入のうえ提出してください。(ワープロ作成可)
E票	在職期間証明書	本学大学院所定の様式に所属施設(機関)の長又は代表者が証明したものを提出してください。勤務歴が無い場合は、提出不要です。入試区分が社会人特別選抜の場合は、通算3年以上の実務経験が必要です。
H票	出願資格審査結果通知用封筒	結果通知書送付先の住所、氏名及び郵便番号を記入し、809円分の切手を貼付してください。
	卒業(見込み)又は修了(見込み)証明書	最終学校及び看護師、保健師、助産師又は臨床検査技師の資格取得に関わる学校のを各1部提出してください。(最終学校と看護師、保健師、助産師又は臨床検査技師の資格取得に関わる学校が同一の場合は1部で構いません。)
	成績証明書	最終学校及び看護師、保健師、助産師又は臨床検査技師の資格取得に関わる学校のを各1部厳封したものを提出してください。(最終学校と看護師、保健師、助産師又は臨床検査技師の資格取得に関わる学校が同一の場合は1部で構いません。)
	免許証の写し又は国家試験受験資格取得(見込み)証明書	免許証は、看護師、保健師、助産師又は臨床検査技師の免許証の写し(A4サイズに縮小したもの)を提出してください。 国家試験受験資格取得(見込み)証明書は、看護師、保健師、助産師又は臨床検査技師の資格取得(見込み)証明書を提出してください。
	在学証明書	在籍する大学の学長又は学部長が作成したものを提出してください。【出願資格⑨に該当する者のみ】
	出願資格審査申請用封筒	住所及び氏名等必要事項を記入し、「書留速達郵便」で郵送してください。

※ 証明書等が、現在の姓名と異なる場合には、その異動内容が確認できる戸籍抄本(個人事項証明書)を提出してください。

- (6) 出願資格審査結果の通知  
令和2年12月18日(金)に郵送します。

## 6 事前相談

出願を希望する者は、出願前（出願資格審査申請する者は申請前）に、入学後の研究等について、希望する教員に連絡のうえ、事前相談を行ってください。事前相談をせずに出願することはできません。

### (1) 相談期間

令和2年12月22日（火）まで

ただし、出願資格審査申請する場合は、令和2年12月8日（火）まで

### (2) 相談方法

- ① 「氏名」「連絡先：郵便番号、住所、電話、携帯、FAX、メールアドレス」「事前相談希望日時」を記入のうえ、下記連絡先にメールにて、希望する教員に連絡してください。
- ② 教員から面談日についての連絡を行います。
- ③ 面談日に、「志願票（A票）」又は「出願資格審査申請書（G票）」、「志望理由書（D票）」及び「その他教員が必要とする書類」を持参してください。面談後返却いたします。
- ④ 教員から「志願票（A票）」又は「出願資格審査申請書（G票）」の事前相談欄に署名を受けてください。

※教員に連絡が取れない場合又は教員から連絡がこない場合は、教務学生グループTEL 089-958-2111（内線108）までご連絡ください。

### (3) 担当教員及び連絡先等 ※メール送信する場合は、「◎」を「@」に変更して送信してください。

#### 看護学専攻

領域	担当教員	研究概要	連絡先
基盤看護	野本百合子	看護職養成を目的とする看護基礎教育や看護専門職者の職業的発達を支援する看護継続教育などに関連する現象を解明する研究	ynomoto◎epu. ac. jp
	岡田ルリ子	看護教育学領域のなかから、主として、ケア技術の開発と検証に関する研究	rokada◎epu. ac. jp
育成支援看護	豊田ゆかり	在宅医療を必要とする子供と家族の支援に関する研究 医療的ケア児等退院支援・多職種連携に関する研究	ytoyota◎epu. ac. jp
成人看護	中西 純子	急性期・慢性期を問わず、疾患や治療とともに生きる人の心理的適応（意思決定支援等）や社会生活への適応（生活行動の再獲得支援や就労支援）を促進する看護に関する研究、および看護職の人材育成に関する研究	nakanisi◎epu. ac. jp
	島田 美鈴	がんサバイバーの抱える心理社会的問題に焦点をあて、がんとともに生きていくための支援に関する研究	mshimada◎epu. ac. jp
高齢者看護	田中 昭子	高齢者やその家族を対象とした支援に関する研究	atanaka◎epu. ac. jp
精神看護	越智 百枝	精神看護の対象への看護領域のなかから、主にアルコール依存症等の精神疾患を持つ患者及び家族の対象理解や成長発達を促すあるいは回復を促す看護に関する研究	moe◎epu. ac. jp

地域看護	野村美千江	地域・在宅看護学領域における健康な人々あるいは療養者とその家族への支援に関する研究、地域・在宅ケアに従事する専門職やシステム・社会資源に関する研究	mnomura@epu.ac.jp
	田中美延里	地域看護学領域のなかから、主として、保健師のキャリア発達支援、継続教育に関する研究	mtanaka@epu.ac.jp

### 医療技術科学専攻

領域	担当教員	研究概要	連絡先
病因解析分野	檜枝 美紀	核内ゲノム3次元構築に重要な機能を担っている核膜タンパク質に着目し、正常細胞および、がん細胞における機能に関する研究	mhieda@epu.ac.jp
	高田 智世	骨代謝などの代謝性疾患を中心に、遺伝子発現解析や生化学的分析に関する研究	takata@epu.ac.jp
	則松 良明	種々の臓器での癌およびその前癌病変における細胞診断基準の策定に関する研究	ynorimatsu@epu.ac.jp
	草薙 康城	妊娠時を中心とした高血圧の病態、病因に関する研究	ykusanagi@epu.ac.jp
生体機能分野	山田 武司	獲得免疫に焦点を当てた感染防御および腫瘍抑制に関する研究	tyamada@epu.ac.jp
	山口 文徳	細胞の増殖・分化のメカニズムや機能分子に注目し、その機能破綻によって生じるがんや中枢神経疾患の病因・検査・診断・治療に関する研究	fyamaguchi@epu.ac.jp
	徳原 康哲	腎疾患および先天性代謝異常症に関連した病態解析や検査法開発に関する研究	Ytokuhara@epu.ac.jp
	脇坂 浩之	頭頸部がんの診断、病態、病因に関する研究	hwakisaka@epu.ac.jp
	山岡 源治	造血器腫瘍等の血液疾患を中心に、フローサイトメトリ一解析や形態学的手法に関する研究	Gyamaoka@epu.ac.jp

## 7 出願手続

### (1) 出願期間

令和2年12月21日（月）～12月25日（金）**必着**

### (2) 出願方法

出願に要する書類等を一括して、所定の出願用封筒に入れて、持参又は郵送してください。

持参の場合	受付時間は、午前8時30分から午後5時15分までとします。
郵送の場合	書留速達郵便とし、12月25日（金） <b>必着</b> とします。 ※期間内必着ですので、郵送に必要な日数を十分考慮してください。



(3) 出願先

〒791-2101 愛媛県伊予郡砥部町高尾田 543 番地  
愛媛県立医療技術大学 教務学生グループ  
TEL 089-958-2111 (内線 108)

(4) 出願書類

書 類		作 成 方 法
A票	志 願 票	本学大学院所定の様式を使用し、必要事項を記入のうえ提出してください。※事前相談欄には、事前相談に対応した教員から署名を受けてください。【出願資格⑨⑩は事前相談欄の署名は不要】
B票	写 真 票	必要事項をみれなく記入してください。 縦4cm×横3cmの写真（上半身正面、脱帽、無背景で出願前3か月以内に撮影したもの。白黒可）の裏面に氏名、生年月日を記入し、写真貼付欄にはがれないよう全面をのり付けしてください。
C票	受 験 票	
D票	志望理由書	本学大学院所定の様式を使用し、必要事項を記入のうえ提出してください。（ワープロ作成可）【出願資格⑨⑩は提出済みのため不要】
E票	在職期間証明書	本学大学院所定の様式に所属施設（機関）の長又は代表者が証明したものを提出してください。勤務歴が無い場合は、提出不要です。入試区分が社会人特別選抜の場合は、通算3年以上の実務経験が必要です。【出願資格⑨⑩は提出済みのため不要】
F票	受 験 票 送付用封筒	受験票送付先の住所、氏名及び郵便番号を記入し、809円分の切手を貼付してください。
	卒業（見込み）証明書・ 出願資格に関する 証明書	出身大学の学長又は学部長が作成したもの。 出願資格②～⑧によって出願する者は、その資格に関する証明書を提出してください。【出願資格⑨⑩は提出済みのため不要】
	成績証明書	看護師、保健師、助産師又は臨床検査技師の資格取得に関わる出身（所属）の大学等の学長又は学部長が作成し、厳封したものを提出してください。【出願資格⑨⑩は提出済みのため不要】
	免許証の写し又は 国家試験受験資格取得 （見込み）証明書	免許証は、看護師、保健師、助産師又は臨床検査技師の免許証の写し（A4サイズに縮小したもの）を提出してください。 国家試験受験資格取得（見込み）証明書は、看護師、保健師、助産師又は臨床検査技師の資格取得（見込み）証明書を提出してください。【出願資格⑨⑩は提出済みのため不要】
	入学選考料	入学選考料30,000円を銀行の窓口から振込後（ATMは使用しないでください。）日付印を押した「振込受付証明書（大学提出用）」を「選考料払込証明書」に貼付してください。
	出願用封筒	必要事項を記入し、「書留速達郵便」で郵送してください。

※ 証明書等が、現在の姓名と異なる場合には、その異動内容が確認できる戸籍抄本（個人事項証明書）を提出してください。

(5) 出願手続上の注意事項

- ① 必要な書類が全て揃っていない場合には受付できませんので、出願の際には十分確認してください。
- ② 出願受付後は出願事項の変更は認めません。ただし、住所、氏名及び電話番号に変更があった場合には、出願先まで連絡してください。
- ③ 入学を許可した後であっても、出願書類の記載事項と相違する事実が発見された場合には、入学を取り消すことがあります。
- ④ 試験期日の5日前までに受験票が届かない場合には、出願先まで問い合わせてください。
- ⑤ 一度受付をした出願書類及び入学選考料は返還しません。

(6) 身体に障がいがあり、受験上の配慮を希望する入学志願者に対する相談

身体に障がいがあり、受験上の配慮を希望する入学志願者は、出願の前に、あらかじめ次の事項を記載した文書（様式は自由）により相談してください。

なお、必要に応じ、入学志願者又は出身学校関係者等にお話を伺うことがあります。

① 記載事項

ア 入学志願者の氏名・志望専攻名

イ 障がい等の種類・程度または配慮を必要とする理由

ウ 受験上の配慮を希望する事項

② 提出及び相談先

〒791-2101 愛媛県伊予郡砥部町高尾田543番地

愛媛県立医療技術大学 教務学生グループ

TEL 089-958-2111（内線108）

③ 提出期限

令和2年12月10日（木）

## 8 合格発表

(1) 発表期日

令和3年1月15日（金） 午前10時

(2) 発表方法

愛媛県立医療技術大学の掲示板に合格者の受験番号を掲示するとともに、合格者には合格通知書を送付します。（不合格者には通知しません。）

また、愛媛県立医療技術大学ホームページに合格者番号を掲載します。

なお、電話による問い合わせには一切応じません。

## 9 試験結果の開示について

試験結果について、「愛媛県個人情報保護条例」に基づき開示請求することができます。

(1) 開示内容

総合得点及び総合順位

(2) 開示手続

受験者（本人に限ります。）が受験票を持参の上、開示場所にて、口頭で開示請求してください。

電話、はがき等による請求では、開示できません。

(3) 開示場所

愛媛県立医療技術大学 教務学生グループ

(4) 開示期間

合格発表の日から1か月間（土曜日、日曜日及び祝日は除きます。）

午前8時30分から午後5時15分まで

ただし、合格発表の日は合格者受験番号の掲示後、開示請求を受け付けます。

## 10 入学手続

### (1) 入学手続期間

令和3年1月18日(月)～1月22日(金)

受付時間は、午前8時30分から午後5時15分までとします。(土曜日及び日曜日は除きます。)

郵送の場合は、期間内必着です。

### (2) 入学手続場所

愛媛県立医療技術大学 教務学生グループ

### (3) 入学手続方法

合格通知の際に送付する書類に必要事項を記入し、入学手続期間内に必要書類を持参又は郵送して入学手続を行ってください。

入学料の納付については、合格通知の際に送付する納入通知書により、指定の金融機関で事前に納付してください。

現金を持参しても本学では納付することはできません。

[必要書類]

宣誓書、入学料領収書の写し、愛媛県内居住者の確認書類(「住民票」等、該当者のみ)、写真2枚(縦3.0cm、横2.5cm)、卒業証明書、愛媛県立医療技術大学受験票が必要になります。

詳細は、合格通知書と併せて送付する入学手続について記載した文書を参照してください。

### (4) 注意事項

- ① 入学手続期間内に手続を完了しなかった者については、入学を辞退したものとして取り扱います。
- ② 必要書類が全て揃っていない場合には受付できません。書類提出の際には十分確認をしてください。
- ③ 一度受付をした入学手続必要書類及び入学料は返還しません。

## 11 大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例の実施について

社会人の方が在職のまま大学院教育が受けられるよう、大学院設置基準第14条の規定を適用し、夜間、土曜その他特定の時間又は時期に開講する授業や集中講義などを設けています。この措置の適用を希望する方は、事前相談時に対応した教員にご相談ください。

## 12 長期履修学生制度について

職業を有している等の理由により、標準修業年限(2年)での履修が困難な学生を対象に、3年又は4年で計画的に履修し修了することを認める制度です。(1年次後期認定予定。)許可を受けた学生は、授業料の残額を長期履修期間として認められた期間に均等分割して支払うこととなります。(長期履修期間中に授業料が変更された場合は、調整されます。)

## Ⅱ その他

### 1 初年度納付金 ※金額については改定される場合があります。

#### (1) 入学料

入学手続の際には、納入通知書により下表の入学料を納付する必要があります。

区 分		金 額	備 考
入 学 料	県内居住者	282,000円	次のいずれかに該当する者 ① 入学者本人が、令和2年4月1日以前から引き続き愛媛県内に住所を有する者 ② 入学者本人の配偶者又は1親等の親族が、令和2年4月1日以前から引き続き愛媛県内に住所を有する者
	県外居住者	423,000円	上記以外の者

※ 県内居住者については、県内居住者であることを確認するため、入学手続の際に「住民票」等を提出していただきます。

※ 上記入学料の金額は、令和2年10月1日現在のもので、入学料の改定が行われた場合、改定時から新しい入学料の額を適用します。

#### (2) 授業料

区 分	金 額	備 考
授業料	年額 535,800円	前期分 4月に納付 後期分 10月に納付

※ 上記授業料の金額は、令和2年10月1日現在のもので、授業料の改定が行われた場合、改定時から新しい授業料の額を適用します。

## 2 入学料及び授業料等の減免制度

#### (1) 入学選考料及び入学料の減免等

経済的な理由により、入学選考料及び入学料を納付することが困難と認められる者に対し、入学選考料の免除及び入学料の減免、納付猶予及び分納の制度があります。

##### 【申請手続】

入学選考料の免除を希望する場合は出願時に、入学料の減免等を希望する場合は入学料の納付期限までに、所定の申請書を本学教務学生グループへ提出してください。

なお、納付後の返還はできませんので、必ず納付する前に申請を行ってください。

#### (2) 授業料の減免等

学業成績が優秀で、かつ、経済的な理由により、授業料を納付することが困難と認められる者に対し、授業料の減免、納付猶予及び分納の制度があります。

##### 【申請手続】

授業料の減免等を希望する場合は、納付期限までに、所定の申請書を本学教務学生グループへ提出してください。

なお、納付後の返還はできませんので、必ず納付する前に申請を行ってください。

### 3 奨学金制度

奨学金は、成績が良好かつ経済的な理由で修学が困難な学生に、学業の継続を援助するための資金を貸し付ける制度で、以下の制度があります。

#### 日本学生支援機構奨学金

○第一種奨学金／無利子貸与

月額貸与額を5万円、8万8千円の2種類から選択できます。

○第二種奨学金／有利子貸与

月額貸与額を5万円、8万円、10万円、13万円、15万円の5種類から選択できます。

#### その他

自治体や公的団体などで奨学金制度を整備しているところもありますので、詳細は教務学生グループへ問い合わせてください。

### 4 修了時に取得できる学位

看護学専攻：修士（看護学）

医療技術科学専攻：修士（医療技術科学）

### 5 個人情報の保護

本学が保有する個人情報については「愛媛県個人情報保護条例」に基づき取り扱います。出願や入学手続きに際し、本学が取得した氏名、住所その他の個人情報は、次の目的以外には利用しません。

- (1) 入学者選抜（出願処理、受験票発送、試験実施、成績処理等）、合格通知、入学手続案内、入学者選抜に係る調査・研究等の入試事務及びこれに付随する事務
- (2) 入学後の教務事務（履修管理、成績管理）、学生支援事務（学籍管理、健康管理、奨学金申請等）、授業料等の収納事務及びその他付随する事務

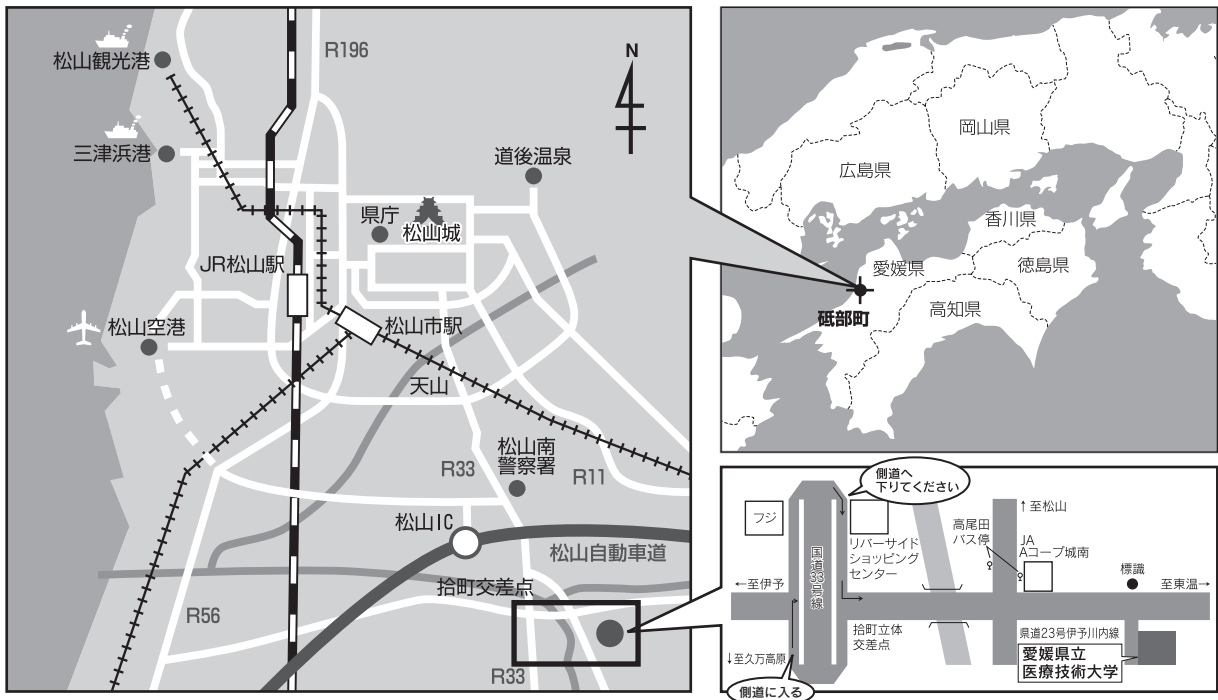
### 6 ホームページ

ホームページにおいても情報の提供を行っています。アドレスは <https://www.epu.ac.jp/> です。入学試験の情報（最終出願状況等）も結果がまとまり次第、掲載する予定です。

### Ⅲ 案内図（試験会場・合格発表場所・入学手続場所）

#### 愛媛県立医療技術大学

（所在地：愛媛県伊予郡砥部町高尾田 543 番地）



#### 公共の交通機関利用の場合



J Rバスを利用することもできます。(運行回数が少ないので注意してください。)

J R松山駅から J Rバス落出行乗車・高尾田バス停下車 (約25分)

高尾田バス停から徒歩 (約10分)

#### 車の場合

- ①松山自動車道松山インターで降り、国道 33 号を高知市・久万高原町方面に右折
- ②約 3 km南の砥部町「拾町立体交差点」で、県道 23 号伊予川内線を東温市方面に左折
- ③約 1 km直進し、愛媛県立医療技術大学の標識を右折

# IV 2021 年度入学生適用カリキュラム

## 1 教育課程の概要

看護学専攻の授業科目及び単位数

科目区分	授業科目の名称	配当年次※	単位数			時間数	
			必修	選択	選択必修		
共通科目	保健医療システム論	1前	2			30	
	医療倫理学特論	1後	1			15	
	生涯教育学特論	1前		2		30	
	保健医療統計解析	1後		2	4	30	
	医療情報学特論	1後		2		30	
	疾病制御学特論	1前		2		30	
	英文献講読	1前		1		15	
	小計 (7科目)	-	3	9			
専門共通	看護管理学特論	1後		2		30	
	看護研究方法論 I	1前		2	5	30	
	看護研究方法論 II	1前		1		15	
	理論と看護実践論	1後		2		30	
	小計 (4科目)	-	0	7			
専門科目	基盤看護	看護教育学特論 I	1前		2		30
		看護教育学特論 II	1後		2		30
	育成支援看護	看護技術学特論	1後		2		30
		看護教育学・技術学演習	1通		2		60
	成人看護	育成支援看護学特論 I	1前		2		30
		育成支援看護学特論 II	1後		2		30
		育成支援看護学特論 III	1後		2		30
		育成支援看護学演習	1通		2		60
	高齢者看護	成人看護学特論 I	1前		2		30
		成人看護学特論 II	1後		2		30
		成人看護学特論 III	1後		2	8	30
		成人看護学演習	1通		2		60
		高齢者看護学特論 I	1前		2		30
		高齢者看護学特論 II	1後		2		30
	精神看護	高齢者看護学演習	1通		2		60
		精神看護学特論 I	1前		2		30
		精神看護学特論 II	1後		2		30
	地域看護	精神看護学演習	1通		2		60
		地域看護学特論 I	1前		2		30
		地域看護学特論 II	1後		2		30
		健康科学特論	1後		2		30
	地域看護学・健康科学演習	1通		2		60	
小計 (22科目)	-	0	44				
特別研究	1後～2通	10			240		
小計 (1科目)	-	10	0				
合計 (34科目)	-	13	60				

【参考】修了に必要な単位

授業科目区分	修得単位数	
	必修科目	選択科目
共通科目	3	4以上
専門科目	専門共通	5以上
	専門分野	8以上
	特別研究	10
合計	30以上	

医療技術科学専攻の授業科目及び単位数

科目区分	授業科目の名称	配当年次※	単位数			時間数	
			必修	選択	選択必修		
共通科目	保健医療システム論	1前	2			30	
	医療倫理学特論	1後	1			15	
	生涯教育学特論	1前		2		30	
	保健医療統計解析	1後		2	4	30	
	医療情報学特論	1後		2		30	
	疾病制御学特論	1前		2		30	
	英文献講読	1前		1		15	
	小計 (7科目)	-	3	9			
専門共通	臨床検査技術学特論	1後		2		30	
	医療技術科学研究方法論 I	1前		2	5	30	
	医療技術科学研究方法論 II	1後		1		15	
	先端医療科学特論	1前		1		15	
	環境保健学	1前		1		15	
	小計 (5科目)	-	0	7			
専門科目	病因解析分野	分子細胞生物学特論	1前		2		30
		分子細胞生物学演習	1後		2		60
		遺伝子検査学特論	1前		2		30
		遺伝子検査学演習	1後		2		60
	生体機能検査分野	感染制御学特論	1前		2		30
		感染制御学演習	1後		2		60
		病理細胞診検査学特論	1前		2		30
		病理細胞診検査学演習	1後		2	8	60
	生体機能検査分野	生体防御学特論	1前		2		30
		生体防御学演習	1後		2		60
		生体機能検査学特論	1前		2		30
		生体機能検査学演習	1後		2		60
	病態情報解析分野	病態情報解析特論	1前		2		30
		病態情報解析演習	1後		2		60
		血液病態検査学特論	1前		2		30
		血液病態検査学演習	1後		2		60
小計 (16科目)	-	0	32				
特別研究	1後～2通	10			240		
小計 (1科目)	-	10	0				
合計 (29科目)	-	13	48				

【参考】修了に必要な単位

授業科目区分	修得単位数	
	必修科目	選択科目
共通科目	3	4以上
専門科目	専門共通	5以上
	専門分野	8以上
	特別研究	10
合計	30以上	

※配当年次のうち、「1」と「2」は年次を、「前」は「前期」、「後」は「後期」、「通」は「通年」を表します。  
 ※一部授業科目において、特定の科目の履修を前提としている場合がありますので注意してください。

## 2 授業科目の概要

### 共通科目

科 区 目 分	授業科目の名称	講義等の内容
共 通 科 目	保健医療システム論	わが国の保健医療制度の歴史の変遷を時代背景や社会的ニーズの考察をふまえ理解する。地域に根ざした保健医療を展開する方法や人々の生活実態に即したケアシステムの構築を討論する。現在進められている多職種連携を基盤に、保健・医療・福祉の各分野・機関が目指すチームビルディングの実際と課題を提示するとともに、連携協働を推進するために必要な概念や考え方を学ぶ。地域高齢者の生活実態と課題、支援対策の歴史の変遷と現在の制度仕組みについて学ぶ。社会保障の財政や地域間格差、高齢者・障害者・児童・生活困窮者に対する福祉の現状と課題、地域福祉を担う専門職とその人材育成について学ぶ。 (担当教員) 野村美千江・豊田ゆかり・田中昭子・非常勤講師
	医療倫理学特論	医療倫理や研究倫理の歴史と基本的概念及び方法論等について学修し、ケースを用いたディスカッションを通じて、課題解決に向けたアプローチが実践できる思考とスキルの獲得をめざす。 (担当教員) 非常勤講師
	生涯教育学特論	成人への教育の基盤となる「成人教育学 (Andragogy)」や専門職者への教育に関連する知識を教授する。人材育成や学生指導を振り返り、「成人教育学」や専門職教育の知識を活用して教育的実践を検討する機会とする。青年期以降の発達段階や発達課題、学習過程について、具体的かつ体系的に理解し、人間の学習行動とワークコミットメントとの関係、キャリア発達とメンタルヘルスについて、ディスカッションを交えながら展開し、理解を深める学びにつなげる。医療専門職者の人材育成の現状と課題を理解し、成長を促す仕事経験と組織的支援について実践例を通して学ぶ。 (担当教員) 野本百合子・仲渡江美・田中美延里
	保健医療統計解析	保健医療分野における科学的実践活動および研究で使用される主要な統計学的手法と解析を取り上げ、目的に応じたデータ解析を実践するための知識と方法について、文献での使用例の検討や演習を交えて学ぶ。 (担当教員) 鳥居順子・入野了士
	医療情報学特論	近年、医療の分野への情報処理技術の利用・応用が急速に進みつつある。医療の高度化と複雑化に伴い、医療情報の増加、病院の各部門や医療施設の連携が進行している。医療情報学の中核となる医療情報システム(病院情報システム等)について知識を深め、現在の医療の分野に対応できる能力を修得する。 (担当教員) 非常勤講師
	疾病制御学特論	がんや婦人科疾患を中心とした最新の疾病制御に関する研究成果とエビデンスを取り上げ教授する。 (担当教員) 脇坂浩之・草薙康城
	英文献講読	医療関連分野の英語の講読を行う。講読を通して専門書や学術論文を読む力を総合的に養う。 (担当教員) 内藤真帆



看護学専攻 専門科目

科 区 目 分	授業科目の名称	講義等の内容
専 門 共 通	看護管理学特論	変化し続ける我が国の保健医療福祉制度の影響を受けるヘルスケアシステムにおいて看護管理の役割は拡大している。看護管理に関わる今日的課題に焦点を当て、質の高いヘルスケアサービスを効果的に顧客に提供していくための理論と実践方略を修得し、看護管理プロセスについての理解を深める。 (担当教員) 松井美由紀・非常勤講師
	看護研究方法論 I	看護研究における研究疑問から研究課題への絞り込み、課題に応じた研究方法・データ分析方法の選定と方法(質的・量的・実験的研究)、研究倫理、研究計画書の作成等の概要を理解し、研究計画書の作成、研究の遂行、論文作成までの基本的知識と方法を身に付ける。 (担当教員) 越智百枝・中越利佳・岡田ルリ子
	看護研究方法論 II	看護研究を遂行するプロセスのうち、特に文献検討の目的と意義・各種データベースの検索方法、マトリックス方式、課題に関連した文献レビューについての講義と演習により基礎的知識と方法を修得する。 (担当教員) 枝川千鶴子・徳永なみじ
	理論と看護実践 論	理論の定義・構成要素、看護理論の種類、開発の歴史、代表的な看護理論について学修し、その中から選んだひとつの理論で自験例を分析することにより、実践の基盤となる看護理論の活用方法及び活用の意義について理解を深める。 (担当教員) 中西純子・島田美鈴・中平洋子

科 区 目 分	授業科目の名称	講義等の内容
専 門 分 野 ・ 基 盤 看 護	看護教育学特論 I	看護学教育の基盤となる看護教育学の理解に必要な知識を理解し、看護専門職者や学生の職業的発達への支援に向け、教育の原点となる文献を講読したり、看護学教育に必要な基本的知識を考察したりすることを通して、看護教育学の基礎を理解する。また、それらの知識を活用し、専門職への継続教育や学生への教育の分析を通して、医療専門職者や学生に対する教育の展開方法を理解するとともに、これからの看護学教育を展望する。 (担当教員) 野本百合子・岡田ルリ子
	看護教育学特論 II	看護学教育に関わる授業計画や研修計画の立案に必要な知識を修得するための文献を講読し、授業を実施するための実践的知識を理解する。また、看護教育学特論Iと本科目の学習成果を基盤に、学生を含む医療専門職者への実際、あるいは仮想の教育場面を設定し、授業設計や研修会の企画・立案を通して、教育の実践に必要な実際的な知識や技術を活用する機会を得る。 (担当教員) 野本百合子・徳永なみじ
	看護技術学特論	看護技術研究論と看護技術教育論を学ぶ。 看護技術研究論では新たな看護技術の開発・検証のプロセス、看護技術教育論では看護技術教育力を高めるための方法論を修得する。 (担当教員) 岡田ルリ子・徳永なみじ・窪田静
	看護教育学・技 術学演習	看護教育学特論あるいは看護技術学特論の学習成果を基盤に、看護専門職への教育や看護技術開発・検証などに関わる現象について、関連研究の講読などを通して焦点を絞り、さらなる追究の方向性を検討する。同時に、これらの関連文献のクリティークを通して、多職種が協働する実践現場における課題解決のための研究に最適な研究手法に関する理解を深めると共に、成果の活用方法を検討する。 (担当教員) 野本百合子・岡田ルリ子・徳永なみじ・窪田静

科 区 目 分	授業科目の名称	講義等の内容
専門分野・育成支援看護	育成支援看護学特論Ⅰ	認知・精神分析理論を理解する。また小児と家族をケアできるための看護に活用できる理論の理解を深める。 (担当教員) 豊田ゆかり・枝川千鶴子・仲渡江美
	育成支援看護学特論Ⅱ	乳幼児期から成人に至る発達研究を理解し、小児看護研究を追求するための方法を思考する。 (担当教員) 豊田ゆかり・枝川千鶴子・仲渡江美
	育成支援看護学特論Ⅲ	周産期にある対象に焦点をあて、親としての意識の形成・母性意識・家族の発達について理論の理解を深める。また、プレコンセプションケアとして、思春期からの健康支援に関する理論の理解を深める。 (担当教員) 中越利佳
	育成支援看護学演習	小児・母性・家族に関係する研究文献クリティークを通じ、看護研究を進めるための研究能力を身につけるために必要な方法を修得する。 (担当教員) 豊田ゆかり・枝川千鶴子・中越利佳・仲渡江美
専門分野・成人看護	成人看護学特論Ⅰ	慢性的な経過をたどる病者及びクリティカルな状況にある病者とその家族が抱える課題を捉えるための重要概念や理論を学修し、臨床事例に照らして説明できるよう理解を深めていく。具体的には、コンプライアンス/アドヒアランス、病みの軌跡、ストレス・コーピング理論、危機理論、急性期特有の諸症状等を取り上げる。 (担当教員) 中西純子・島田美鈴・松井美由紀
	成人看護学特論Ⅱ	慢性・急性の状況にある人の課題を解決あるいは援助するためのモデルやプログラム、方法について、その開発過程や実践適用への評価を含めて学修する。また、療養や治療にかかわる制度や環境について理解を深める。具体的には、慢性疾患セルフマネジメントプログラムやEASEプログラム、ナラティブアプローチ、自己効力感、保健行動理論、動機づけ面接法、ソーシャルサポート等を取り上げる。 (担当教員) 中西純子・島田美鈴・松井美由紀
	成人看護学特論Ⅲ	本科目では、がんと共存しながらその人らしく生き続けるがんサバイバーの理解と支援について、以下のがん看護コアカリキュラムの基本的な考え方を土台とし、学修する。①がんの理解に必要な基礎知識を豊かにし、がん看護実践に活用することができる事を目指す。②多様な状況にあるがん患者および家族に対する看護実践において、専門職としての倫理的な姿勢を考察する。③がん患者および家族の体験を理解し、病期や治療に伴う特徴的な喪失と危機への援助方法について考察し理解を深める。④がん患者と家族への看護実践の基本的な支援の考え方であるセルフケア、ヘルスプロモーション、リハビリテーションを理解し、チームアプローチについて理解を深める。 (担当教員) 島田美鈴・松井美由紀・非常勤講師
	成人看護学演習	慢性・急性の状況にある病者の看護に関する研究論文のレビューや先進事例の報告論文等を通して、特論での学修の理解を補強していく。また、その過程を通じて自らの研究テーマにつながる課題を見つけ、予備段階のフィールド調査を行う。 (担当教員) 中西純子・島田美鈴・松井美由紀
専門分野・高齢者看護	高齢者看護学特論Ⅰ	高齢者やその家族に関する理論や概念について学ぶ。 (担当教員) 田中昭子・非常勤講師
	高齢者看護学特論Ⅱ	高齢者やその家族に関する健康課題、アセスメントや評価方法、支援方法について学ぶ。 (担当教員) 田中昭子・未定
	高齢者看護学演習	高齢者やその家族に関する研究の動向について学び、文献検討を通して問題意識を研究課題へと精練させる。また、研究方法についても検討し、手法を学ぶ。 (担当教員) 田中昭子・未定

科 区 目 分	授業科目の名称	講義等の内容
専門分野・精神看護	精神看護学特論 I	人の心と身体はつながっている。ゆえに身体の病気であろうと、心の病気であろうとも、互いの影響を考慮に入れ、看護を考えていく必要がある。また、心の健康と不健康は連続線上に位置するものであり、健康な人も心を病む人も心の健康を守る仕組みや機序は同じである。人は、自分自身のことをもっともよく知り、セルフケアできる存在であること、また、病気をきっかけに、より高いレベルへの成長・発達を遂げる。このような前提に立ち、精神看護の対象を理解するために役立つ理論や概念について理解し学んだ理論を適用して対象理解を深める。 (担当教員) 越智百枝
	精神看護学特論 II	精神看護学特論 I で学んだ対象理解に基づき、精神看護の対象及びその家族が病気や障害を持ちながら、地域社会で生活することのみでなく、人として成長・発達していくことを支援するための概念や理論を修得する。また、精神看護の対象やその家族に対する先駆的な実践活動を文献学習し、学んだ理論や概念を適用した援助の方法を考察する。 (担当教員) 中平洋子・越智百枝・非常勤講師
	精神看護学演習	精神看護学特論 I、II で学んだことを基に、精神看護の対象理解や援助にかかわる現象を扱った文献のクリティークを行い、精神看護領域の研究課題についての考察を深める。またそれらの課題の解決に適切な研究手法について、文献クリティークから検討するとともにフィールドワーク、データ分析の実際などをトレーニングし研究手法を修得する。 (担当教員) 越智百枝・中平洋子
専門分野・地域看護	地域看護学特論 I	地域看護学の基礎理論・周辺理論とその主要概念を実践例を通して学ぶ。 (担当教員) 田中美延里・非常勤講師
	地域看護学特論 II	地域看護の対象としての組織と協働する対象としての組織をアセスメントする基礎的知識を得るために、組織論についての主流な考え方の変遷を踏まえつつ「組織」を学術的に分析するための概念を整理する。 (担当教員) 野村美千江
	健康科学特論	ひとびと及び個人の健康を支えるために役立つ基礎理論や概念を学ぶ。保健行動学（健康行動、行動変容、理論と実践）、健康情報学（疫学、EBM・EBN、意思決定）の観点から理解を深める。 (担当教員) 未定・入野了士
	地域看護学・健康科学演習	地域看護学特論 I・II 及び健康科学特論で学んだ諸理論や実践への応用を踏まえ、地域における種々の健康課題解決を図る方策や看護実践への研究成果活用について、討論を通じて探究するとともに、文献を批判的に読み、研究に対する洞察力を深める。 (担当教員) 野村美千江・田中美延里・未定・入野了士
特 別 研 究		研究指導領域（p4-5）から一つを選択し指導を受けながら各自の専門領域における研究課題を探究し、新しい知見を導き、研究論文を作成する。この過程を通して自身の専門性を高めるとともに、地域の保健医療に寄与できる研究力を修得する。 (担当教員) 野本百合子、岡田ルリ子、豊田ゆかり、中西純子、島田美鈴、田中昭子 越智百枝、野村美千江、田中美延里、未定

医療技術科学専攻 専門科目

科 区 目 分	授業科目の名称	講義等の内容
専門共通	臨床検査技術学特論	悪性腫瘍・感染症・免疫疾患等に対して科学的に検証されてきた新規検査技術の原理を理解するばかりでなく、その技術の問題点を抽出・解決できるための考察能力を深める。また、現場においてより適切な情報等を医師や患者に還元できる高度な専門性を養う。 (担当教員) 徳原康哲・岡村法宣・未定・未定
	医療技術科学研究方法論Ⅰ	悪性腫瘍や血液疾患等に対して病理学的、免疫学的あるいは遺伝子学的解析により科学的に検証されてきた新規検査技術の原理を理解するばかりではなく、その技術の問題点を抽出・解決できるための考察能力を深める。また、その技術を用いての研究立案(研究課題の発想・絞り込み、研究方法・データ分析方法の策定と倫理的配慮)と実施と結果のまとめ、さらに成果の発表や論文作成までの一連のプロセスに必要な研究能力を修得する。 (担当教員) 則松良明・山口文徳・高田智世・山岡源治
	医療技術科学研究方法論Ⅱ	生命科学分野の研究手法や技術は、日々進歩しており、それらは次々に医療分野へ実用化、応用化される。医療技術科学研究方法論Ⅱでは、細胞生物学分野、分子生物学分野、生化学分野の基礎研究で用いられる最先端の手法に関して、研究の背景、その価値や意義、医療応用への可能性を含めて解説する。それらを通じて、将来にわたって最先端の情報を収集し、病態解析や臨床検査の新しい手法を開発、実施できる専門性を養うことを目指す。 (担当教員) 檜枝美紀
	先端医療科学特論	医学分野の最近の進歩は著しく、次々と画期的な発見が報告されている。これらの多くは、従来の常識や予想を超えたもので、基礎医学・生命科学分野のパラダイムシフトともいえる変革をもたらすとともに、医療分野への応用化に大きな期待が寄せられている。このような医学における進歩について、真の価値や意味を理解することは、医療人として必須であるだけでなく、今後の医療分野への展開を予測するためにも必要である。先端医療科学特論では、最新医学におけるトピックからテーマを選び、研究の背景や内容、意義や価値、今後の医療応用への可能性などについて理解を深める。 (担当教員) 山田武司・非常勤講師
	環境保健学	種々の環境要因が我々の生活環境に存在し、健康に影響を及ぼしている。環境要因を正確に把握し評価することは、環境の保持と健康な生活にとって重要である。生活環境の中で健康に影響を及ぼす社会的環境要因や化学的環境要因を理解する能力を養い、更にそれらの測定法、測定結果の評価法、対策などの情報を提供し、良好な環境を維持しかつ環境に関する諸問題を解決する能力を修得する。 (担当教員) 非常勤講師

科 区 目 分	授業科目の名称	講義等の内容
専門分野・ 病因解析分野	分子細胞生物学特論	疾患発症のメカニズムや臨床検査の基礎となる現象を理解するためには生命の基本単位である細胞という場において、起こっている生命現象を分子レベルで理解することが非常に重要である。分子細胞生物学特論では、疾患の発症に深く関与することが知られている細胞核の構造と機能、エピジェネティクス、核膜タンパク質の機能、核におけるメカノシグナリングについて理解を深める。 (担当教員) 檜枝美紀
	分子細胞生物学演習	学術論文の読み方と書き方、プレゼンテーションのスキル、ディスカッションのスキルを実践的に身に付けることを目標とする。そのために分子細胞生物学特論で学習した内容に沿った国内外の論文を検索し、興味をもった論文を講読する。用いられている研究手法や、導かれた結果・考察に関して自身の見解を含めて解説、発表することにより、批判的に論文を読みこなす能力を身に付け、研究を推進する力を養う。 (担当教員) 檜枝美紀

科 区 目 分	授業科目の名称	講義等の内容
専門分野・病因解析分野	遺伝子検査学特論	ゲノム解析法の進歩によりゲノム医学研究は飛躍的に発展し、患者のゲノム情報や疾患関連遺伝子を網羅的に解析し、最新の臨床研究を参考に疾患の診断や治療方針選択の補助とする臨床シーケンスが実施され始めている。特にがんゲノム医療において、がんの遺伝子異常を網羅的に調べる臨床シーケンス（がんパネル検査）を行い、ゲノム情報に基づく治療を適用する精密医療が始まっている。一方、感染症遺伝子検査においては、感染症診療や感染制御、薬剤耐性遺伝子や毒素の検出、培養困難な病原体の検出などにおける重要性や必要性が認識されており、新しい分析法の導入が目覚ましい。がん診療や感染症診療における最先端の遺伝子解析技術の臨床的有用性や特徴だけでなく、ゲノム医学研究で話題となっているテーマについて理解・考察を深める。また、大量のゲノム情報の医学的意義付けをするバイオインフォマティクスについても理解を深める。 (担当教員) 高田智世
	遺伝子検査学演習	遺伝子検査学特論で学習した内容に沿った国内外の英語論文を各自が調査・分析し、最新の研究手法や研究成果などについて発表し、演習を通して英語論文の読み方、作成の仕方などを身に付ける。また、分子生物学的研究やゲノム医学研究のなかで遺伝子検査として臨床現場に導入される可能性のあるテーマについて、その手法や結果の妥当性・臨床的意義について理解・考察を深めるとともに、臨床診断における新しい遺伝子解析技術の有用性を深く理解し、問題点や課題を見出し解決できる能力を修得する。 (担当教員) 高田智世
	感染制御学特論	病院などの医療関連施設において抗微生物薬剤に対して耐性を持つ微生物による施設内感染事例が問題となっている。そこで、これらの原因微生物の種類・菌の特徴および抗菌薬に対する薬剤耐性因子・薬剤耐性機構などについて遺伝子学的レベルで理解すると共に施設内感染発生時における分子疫学調査の方法および対処方法について学習する。また、臨床検査技師がインфекションコントロールチームの中においてどのように感染制御に実践者として係わるのか等について検討し臨床検査室に於ける感染制御のリーダーシップがとれる能力を修得する。 (担当教員) 未定
	感染制御学演習	感染制御学特論で学習した内容に沿った国内外の英語論文を各自が調査・分析し、抗菌薬に対する薬剤耐性因子・薬剤耐性機構および分子疫学調査の方法などについて考察するとともに最新の研究手法や研究成果などについて発表し、演習を通じて感染制御において実践者としての知識を身に付ける。さらに医療現場において感染制御についての問題点を解決する方法を提案できる能力を養うとともに臨床検査室に於ける感染制御のリーダーシップがとれる能力を修得する。 (担当教員) 未定
	病理細胞診検査学特論	疾患の病因・病態を組織細胞形態学および分子組織・細胞学的観点からその変化を捉え、疾病の本態について理解する。また診断や治療に直結する検査法(Liquid based cytology法、免疫組織細胞化学、ISH、FISH、遺伝子解析等)について学習し、考察を深める。さらに、これらの知識の統括、活用に基づいて、実践現場における疾病の予防、早期発見、治療、病態解析に有用な病理組織細胞検査を実施、開発できる高度な専門性を養う。 (担当教員) 則松良明
	病理細胞診検査学演習	病理細胞診検査学特論で学習および考察した知識をもとに、種々の疾患に関する細胞や組織の変化について、標本を鏡検し、形態学的解析能力を修得する。また、興味を持った病理細胞診に関わる疾患、医療技術に関する国内外の論文を検索し、講読を通じて、著者の研究に対する発想や結果を導き出した研究手法、結果、考察等の妥当性について考察するとともに、自身の研究の参考となるよう理解を深める。 (担当教員) 則松良明・草薙康城

科 区 目 分	授業科目の名称	講義等の内容
専門分野・生体機能分野	生体防御学特論	<p>生体防御における免疫システムの成り立ちについて、自然免疫と獲得免疫の相互作用などを中心に学び、感染症に対する生体防御システムに対する理解を深める。また、免疫反応が負に作用する場合として、臓器移植における拒絶反応やGVHD、および自己免疫性疾患やアレルギー等の免疫疾患にいたるメカニズムについても理解する。さらに、高度な専門性を必要とする職業を担うために最新の免疫学的知見についても学びながら、学問的興味を深める契機とする。免疫学では、マウスでの研究を中心として今なお発展を続けているが、ヒトを対象とした臨床への応用・還元という点ではまだ不十分な部分も多い。今後の臨床への応用を見据えたヒト免疫学の研究領域についても理解を深める。</p> <p>(担当教員) 山田武司</p>
	生体防御学演習	<p>生体防御学特論で学んだ内容をもとにして、興味をもった免疫に関わる生命現象や疾患、医療技術に関する国内外の論文を検索し、できる限り多くの論文に目を通すことで研究への理解を深める。論文講読を通じて、著者が結果を導き出した研究手法や結果の妥当性について考察・理解を深めながら、自身の研究を進める際の参考とし、研究を行う上で生じた問題の解決策を見いだす能力の獲得を目指す。また、この生体防御学演習では、研究内容の効果的なプレゼンテーションの仕方、および学術論文の書き方についても理解を深める。</p> <p>(担当教員) 山田武司</p>
	生体機能検査学特論	<p>学部で学んだ解剖生理学および生理機能検査学をさらに深く理解することで臨床での応用力を高めるとともに、当該分野の研究を実施する能力を養うことを目標とする。本特論ではすでに確立された生体情報論にとどまらず、神経系機能、感覚系機能や生活習慣病の分子機構と疾患について分子レベルから臨床にいたるまでの生体情報解析と検査、診断、および先端研究の動向について理解する。また、生体から発生する種々の信号をデジタル化して記録する原理と方法、記録したデジタルデータのPCによる解析法とその解釈についても理解する。生理機能検査で得られるデータが何に由来しているのか、新しい視点からの生体情報の解析法を開発する能力と総合的見地から生命現象を見つめる洞察力を修得する。</p> <p>(担当教員) 山口文徳・岡村法宣</p>
	生体機能検査学演習	<p>生体機能検査学特論等で修得した知識を応用・発展させて実践的な方法論や解析法を身に付ける。特論で教授した内容について過去の代表的な英語論文を読みながら、その論文の卓越している点や問題点を的確に判断する能力を養い最新の研究成果や科学的に立証された検査技術の原理を理解するとともに、問題点を抽出・解決できるための考察能力を身に付ける。医療現場において、最新の生体機能や医学的知識に基づいたより適切で詳細な検査情報等を提供する能力を修得する。</p> <p>(担当教員) 山口文徳・岡村法宣</p>
	病態情報解析特論	<p>生体試料（血液・尿等）を様々な測定法で解析し、得られた情報から疾患の病態を把握し、病因解明へと展開する方法を、各種疾患をモデルケースとして学ぶ。また、病態と関連する臓器や細胞の解析方法や解析結果を、遺伝子や分子レベルで理解し、新規検査法の応用へ発展させる方法を学ぶ。これらの学習を通して、今後の臨床検査医学の発展に寄与できる高度な専門知識を修得する。</p> <p>(担当教員) 徳原康哲</p>
	病態情報解析演習	<p>過去の事例を基に、患者の血液・尿等から得られた検査結果や組織・細胞から得られた情報について考察し、総合的に疾患を理解する力を向上させる。また、疾患の病因解明や検査法開発に関する複数の文献を精査検討することで、論文を吟味する力を身に付け、病態解析に関する知見を深める。これらの実践を通して、各自の研究内容を的確にまとめ、論文を作成する能力を修得する。</p> <p>(担当教員) 徳原康哲・脇坂浩之</p>

科 区 目 分	授業科目の名称	講義等の内容
専門分野・ 生体機能分野	血液病態検査学 特論	<p>血液疾患は血液自体が病変を含んでいる場合が多く、血液検査が診断に直結する場合も少なくない。本特論では、貧血、炎症性疾患、造血器腫瘍および血栓止血異常症について成因および病態を追求し、疾病の本態についての理解を深める。それらの疾病の血液形態学的、免疫学的検査法および病態解析法を学習し、測定原理や検査の臨床的意義を考察する。さらに、血液疾患の早期発見や治療に役立つ検査法を学習し、臨床応用するための専門性を養う。</p> <p>(担当教員) 山岡源治</p>
	血液病態検査学 演習	<p>血液病態検査特論で学習した内容を活用して、血液疾患の症例検討を実施し、臨床症状、各種検査所見等を総合的に考察することによって、疾病の理解を深める。さらに血液病学及び血液検査学に関連した国内外の論文を検索し、興味を持った論文の講読を通して、研究手法、結果および考察の妥当性の評価し議論をする。これらの学習を通して、自身の研究分野の動向や研究を進める能力を修得する。</p> <p>(担当教員) 山岡源治</p>
特 別 研 究		<p>各教員の研究領域 (p5) から一つを選択し、各自の専門領域における研究課題を探究し、新しい知見を導き、研究論文を作成する。この過程を通して自身の専門性を高めるとともに、地域の保健医療に寄与できる研究力を修得する。</p> <p>(担当教員) 檜枝美紀、高田智世、則松良明、草薙康城、山田武司、山口文徳、徳原康哲、脇坂浩之、山岡源治、未定</p>

公立大学法人 愛媛県立医療技術大学

〒791-2101 愛媛県伊予郡砥部町高尾田 543 番地

TEL 089-958-2111 FAX 089-958-2177

ホームページ <https://www.epu.ac.jp/>

E-mail [nyushi@epu.ac.jp](mailto:nyushi@epu.ac.jp)